

園長だより

日中はお日様の陽ざしが心地よく穏やかに過ごせる日もありますが朝晩の冷え込みは身体にこたえます。

5歳児は生活の中で劇遊び、劇活動が中心的な活動となってきました。取り組む題材も決まり、演じる(お話を基に遊ぶ)ことと大道具づくりなどにも取り組みははじめました。

発表会という名称から劇の会(劇遊びの会)と名称を変えてから数年が経過します。子ども達主体の活動を願い、試行錯誤しながらも子ども達と共に活動を積み上げてきました。今回の便りは過去に発行したものに加筆、修正を加え保育の中で大切なことを風化させないための内容です。

子どもにとっての劇活動

劇の題材はどう考えているの(主に5歳児)

おおぞら保育園で題材の選定については以下のように考えています。

取り上げられている題材、子ども達の劇のベースは主に絵本です。おおぞらでは主に昔ばなし、(語り継がれているもの)ストーリーが子ども達にわかりやすい内容が基本になっています。

各年齢の主目標やめあてを子ども達の育ちと照らし合わせて実践するには、子どもの地点に立ち、活動するために適した、題材を選び、選ばせてあげることが必要です。

「さるかに合戦」
柿の木をつくる



知恵をしぼって

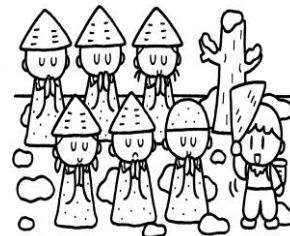


こどもの読みとりやすい内容(本の一例)

劇あそびでとりあげているもの

お話が起承転結 お父さんもお母さんもみんな知っているもの。聞き手の子ども達、みんなにわかりイメージの共有がしやすいもの

- ・3びきのやぎのがらがらどん
- ・おおきなかぶ
- ・三匹のこぶた
- ・てぶくろ
- ・ももたろう
- ・さるじぞう
- ・おむすびころりん
- ・かにむかし(さるかに合戦)
- ・ねずみのよめいり
- ・かさじぞう
- ・おおかみと七ひきのこやぎ
- ・ブレーメンの音楽隊
- ・ポンタのじどうはんばいき
- ・どうぞのいす
- ・かちかち山



さあ、みなさんはいくつのお話を知っていますか？

ほとんどが子どもの頃に読んだことのあるまたは読んでもらったことがあるお話と思います。子ども達が好きな絵本(話)はみんなが話の内容を理解できる筋書きがあります。

起承転結に又はおおきなかぶのように繰り返し進んでいくもの、子ども達は、心地よく大人に読み聞かせてもらう中で話のストーリーを理解していきます。

長編(昔話他)

劇の題材には近年出ていないもの

子ども同士のイメージの共有や劇作りには丹念な活動内容の工夫が必要です。



おおきなもも



「ももたろう」
仲間と共に考え、つくる

2022.11.25

場面の多さや興味、対象の違いがあり、話し合いが進められない等、子ども達にゆだねた活動が展開されにくいものがあります。

先に上げたものより大人が、保育者が入りすぎる、(あれこれと指導する)傾向にあります。

長編の場合、ピアノ伴奏、音楽を加えたオペレッタ、音楽劇というものが主流で、大人が構成したもので進めます。市販のマニュアルもあり、大人が管理、指導する傾向が強いとされています。

おおぞらでは子ども達にゆだねた活動が展開されることを期待し長編のものは近年、題材に選定していません。

- ・ピノキオ
- ・ピーターパン
- ・シンデレラ
- ・白雪姫
- ・アリババと盗賊
- ・アラジン
- ・おやゆびひめ
- ・オズの魔法使い
- ・人魚姫
- ・長靴をはいた猫 等

題材について述べてみましたが子ども達みんなにわかりやすい内容の絵本をなぜ選んでいるのか5歳児の姿からお伝えします。

5歳児から

5歳児では仲間と共に作りあげていくことを願っています。できるだけ子ども達に活動をゆだね、思いや考え、気づきを活動のなかで出し合い取り組んでほしいを願っています。作りあげていくプロセスを大切に考えています。指摘あり、衝突あり、試行錯誤し、活動の中でおこった問題を仲間と解決してほしいとも願っています。子ども達が題材と

なっている話のイメージを共有し、仲間と作り上げていく楽しさを感じてほしいものです。ですから、劇活動の大筋を子ども達の手ですすめていくために題材の選定は大切です。

長編よりも起承転結で子ども達のイメージが共有できることが望ましいと考えます。



「さるかに合戦」
構成を考える
お母さんガニが
大変なことに!

大切にしていることのひとつ

活動のなかで大切にしていることは子どもたちによる話し合い(相談)です。

話し合いは(遊び)の展開過程においてばかりではなく、仲間とめあてをもった活動を進めるうえでとても重要なものです。話し合いの如何により子ども達自身の主体的な活動になっていくかどうかにかかわるからです。

子ども達、ひとり、ひとりが自分の思いを主張しひとり、ひとりの自主性を高めようとする。それが次第に子ども同士の思いのぶつかり合いがあり、どうしたらいいかと話し合い、考えていく中でひとつの遊びを楽しむようになっていく、今回の劇活動もひとりではなく仲間との活動、共に遊んでいる(取り組んでいる)子ども達が仲間を意識していきます。仲間の中で起こった出来事を「みんなの問題」として意識し解決していこうとする子ども達の集団が生まれ、育っていきます。

話し合う、考え合うという思考を獲得し身につけていこうとする姿が仲間と共に力を合わせて活動しようという協同性を育てていくこととなります。

(おおぞら保育園 園長 廣部 信隆)